（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（　熊本県立熊本工業高等　）学校　令和５年度（２０２３年度）学校評価表

１ 学校教育目標

◇教育目標

三綱領のもと、豊かな人間性や礼節を身につけ、心身共に健康で、自主自立の精神をもち優れた工業技術を習得し、地元産業界で活躍できる、次世代を担う産業人材を育成する。

２ 本年度の重点目標

◇重点目標

１　生徒理解　　～生徒の多様な適性等に応じた、個を大切にしたきめ細かい指導～
２　学力の向上　　～基礎学力向上の取組の実施、授業改善～
３　人間力の向上　～基本的生活習慣の確立、マナーやモラルの向上～
４　自己の伸長　　～特別活動、ボランティア活動、部活動～
５　進路目標実現　～キャリア教育の充実と行きたい進路目標の実現～

◇２つの最重点目標

【生徒理解】～生徒の多様な適性等に応じた、個を大切にしたきめ細かい指導～
★指標　生　徒　私は、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている
R3 77.5%→R4 81.5%→**R5 90%**
保護者　一人一人（個人）を大切にした教育が行われている
R3 96.0%→R4 86.5%→**R5 100%**

【学力の向上】～基礎学力向上の取組の実施、授業改善～
★指標　生　徒　熊工定時制の授業は、内容や教え方の工夫があり、とてもわかり易い
R3 83.1%→R4 80.4%→**R5 90%**
保護者　定時制の職員は、授業の内容や指導方法を工夫し、わかりやすい授業づくりに努めている　R3 98.0%→R4 90.4%→**R5 100%**

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	本年度の重点目標の具現化	最重点目標の達成	アンケート項目「落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている」「授業は、内容や教え方に工夫があり、とてもわかり易い」の肯定評価を共に９０％以上とする。	○授業や特別活動等をとおして積極的に生徒に関わり、目標達成に努める。	C	「落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている」は７８．９％、「授業は、内容や教え方に工夫があり、とてもわかり易い」は８２．１％であり、共に９０％以上とすることはできなかった。生徒への関わり方に課題が残った。
	定時制課程の活性化	中学校の生徒・教師及び保護者等における本校定時制の教育活動に関する認知度・理解度の向上	「生徒の活躍や特色ある取組」を随時分かりやすく発信し、広報活動を推進する。	○生徒募集委員会を中心にして、学校ＨＰ等での情報発信の充実を図る。	B	学校パンフレットを、文化祭等の行事において配付するとともに、熊本市の各区役所に置いて配付することができた。また、ＨＰにパンフレットや募集要項を掲載することで、定時制を周知することができた。
			定時制の教育内容等の周知	○学校見学会・学校説明会で本校の定時制とミスマッチの無いように事前の説明を確実に行う。	A	９月に学校見学会を、11月と１月に学校説明会をそれぞれ開催し、生徒・保護者・中学校の先生等合わせて71名の参加があった。

	特別支援教育の推進	ＵＤの視点を持って全ての生徒が「分かる授業」の実践、及び対象生徒への就業支援の推進	校内の支援体制(組織化)を充実させ、全職員が日常の実践をとおして、支援や指導力の向上に努め、対象生徒だけでなく全生徒の学習・就労支援を充実させる。また、必要に応じてSC、SSW及び外部機関との連携を推進する。	○計画的に対象生徒を把握し、日常的に情報を共有しながら支援を行う。年３回の校内研修と講演会（生徒対象１回、職員対象１回）を実施するとともに、日常的な実践に努める。また、校外研修等にも積極的に参加する。	Ｂ	情報共有を目的とする生徒理解職員研修を３回実施することで、担任等から情報を踏まえて、生徒の把握を行うことができた。外部機関との連携も体制づくりを試みたが、組織化作りまでには至っていない。 講演会については職員研修１回と生徒講演会１回を実施することができた。しかし、職員の資質や指導力向上については課題が残った。
	業務改善の工夫	時間の有効活用	運営委員会・職員会議は必要に応じて厳選して行う。始礼も週２回を継続する。	○運営委員会等で協議した内容は始礼で周知することを徹底する。 ○始礼の進め方も発言が必要であるものか事前にチェックする。	Ａ	運営委員会等で協議した内容を始礼で周知することができた。また、会議を厳選するとともに、発言についても適切な時間での発言を実施すことができた。
	働き方改革の推進	時間外勤務の削減と年休取得の推進	全職員の時間外勤務時間を正確に把握する。年間年休取得平均日数の１５日以上を目指す。	○タイムカードは職員間の声かけで打刻忘れがないようにする。 ○勤務終了後、すぐに退勤できるような職場環境づくりと、気軽に年休を利用できるよう意識付けを図る。	Ａ	タイムカードによる時間外勤務の把握を確実に行うことができた。 また、年間年休取得平均日数についても、１５日以上を達成することができた。
学力向上	授業内容の工夫及び充実	分かる授業の実践	生徒が達成感を得られる授業づくりに努め、授業評価で「とても分かりやすい」と答える生徒の割合 90%以上を目指す。また、分かり易い授業づくりに努めていると答える職員の割合 100%を目指す。	○１年全クラスで「TT 授業」を実施する。公開授業や授業評価アンケートを実施し、授業者の細やかな授業準備や振り返りを推進する。また、地歴・公民科で研究授業を実施する。	Ｂ	生徒からの授業評価では、分かりやすい授業であるという項目に対して、「あてはまる」と「やや当てはまる」を合計すると約８２％であった。職員の授業評価では、分かりやすい授業づくりに努めているの項目に対して、「当てはまる」と「やや当てはまる」を合計すると約９７％であった。
	確かな学力を身に付ける	学力の定着	欠点による単位未修得生徒数ゼロを目指す。	○少人数授業や習熟度別授業・ＴＴ授業・ＩＣＴ機器の利点を最大限に活かし、教科･科目の単位修得のために必要な基礎学力を定着させる。	Ｂ	１年生ではすべての科目でTT授業を実施した。また、１・２年生の数学の授業では習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着を図った。ＩＣＴ機器の利用について、多くの教科・科目で行うことができた。

	各種資格取得による学習意欲の高揚	ジュニアマイスターへの挑戦	ジュニアマイスター取得者の育成を目指す。	○資格や検定に対する取り組みにより、ジュニアマイスター取得に挑戦する。生徒の学習意欲の向上を図る。全ての教科･科目で、学習意欲の向上のため基礎･基本的な学力の定着を意識した学習指導を計画的に行う。	A	資格取得に対する取組により、生徒に数多くの資格に挑戦させるとともに、資格取得ポイントを取得することができた。その結果、今年度は、電気科で、ジュニアマイスター顕彰をのべ８人（シルバー３人、ブロンズ５人）が取得することができた。
キャリア教育（進路指導）	生徒の進路希望を達成する	進路目標の達成状況	生徒の希望する進路決定率１００％を目指す。	○生徒の進路希望を基に適宜２者面談と３者面談を実施し、目標設定を明確にする。 ○進路指導部・卒業年次学年・各科が連携・情報共有し、面接・筆記・作文指導など、就職・進学試験対策学習の実施と充実を図る。	B	面談で得た進路希望等の情報を集約し、各担任との間での調整を継続することができた。更に、卒業年次学年団・各学科と情報共有及び連携を図ることで、生徒の進路実現に向けた動きを支えることができた。 進学教科担当者による受験指導についても、丁寧に行うことができた。
	キャリア教育の推進	在学中の就業体験率向上	交流体験学習の全員参加を目指す。就業調査での就業率７０％以上を目指す。	○生徒の就業意識を早期より高めさせ、企業からの就業依頼があれば積極的に生徒へ紹介する。個別の就業相談等を充実させる。	A	交流体験学習（インターンシップ）については、該当者全員が参加することができた。 また、就業調査での就業率は７６．５％を達成することができた。
	卒業生の定着率向上	卒業生の早期離職等の防止	早期離職者をゼロにする。	○卒業生の就業先へ就業状況の調査を実施する。卒業生のフォローを行い離職防止につなげる。１年次から卒業後を見通したキャリア教育を計画的に実践する。	A	全学年対象とした外部講師（本校卒業生）による進路講話を実施することができた。 また各種セミナー（ﾗｲﾌﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ、新社会人）等を実施することで、生徒に新鮮な情報を入手させることができた。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	５Ｓ活動（整理、整頓、清掃、清潔、躾）の徹底	当たり前に気持ちの良い挨拶ができる。	○校内で、教師と生徒が互いにする挨拶できる関係づくりをする。	B	気持ちの良い挨拶ができるようにするためには、教師から生徒に対して行う挨拶に課題が残った。「教師が範を示す」との意識を高める必要がある。
			全ての生徒が授業開始前には着席し、授業の準備をする。	○「落ち着いて学習できる環境づくり」のために、全ての教師が時間前に教室に入り準備することを徹底する。	C	落ち着いた授業を多くのクラスで実施することができている。しかし、クラスによっては、一部の生徒の勝手な行動により、授業の進行が妨げられる事態も生じた。

			身なりで注意される生徒を減少させ、自ら整える心を育てる。	○授業時をはじめ教師が気付いたその場で生徒にしっかりと注意し、改善を促す。	C	生徒に「注意する先生と、注意しない先生がいる」との印象を持たせるような指導となっており、一枚岩となった指導を行うことができなかった。
	規範意識の高揚	２Ａ運動（「当たり前のことを当たり前に」、「安全で愛校心を高める環境に」）の推進	交通ルールと交通マナーの遵守を図り、通学方法申請書の提出を６月までに１００％を目指す。	○集会や講演会等での交通安全教育の充実を図る。また、登下校指導等では、生徒への声かけを徹底する。これにより、安全意識を高める。	B	通学方法申請書の提出を６月までに完了させることができた。 講演会や学年会において、交通マナーについての周知を行うことで、事故件数を減らすことができた。
			社会や学校の規則を遵守させ、特別な指導５件以下を目指す。	○担任、学年及び各科と連携し定期的に個人面談、校内巡回・巡視等を徹底する。	C	特別な指導等が１０件となり、目標を達成することができなかった。
人権教育の推進	人権教育推進体制の充実	人権教育の組織的な推進体制づくり	推進委員会の開催により、各学年や各部署と連携して、人権教育ＬＨＲ等の充実を図る。	○学期毎に定例的な推進委員会を実施し、発達段階や人権課題に対応したＬＨＲ指導案を作成する。	B	学期毎に推進委員会を開催し、ＬＨＲ指導案を検討することができた。
	人権尊重の視点に立った学校づくり	差別を許さない職員の共通意識の向上	校内研修の更なる充実を図るとともに、全職員が年１回以上の校外研修に参加する。	○年間計画に組み込み、計画的に職員研修を実施するとともに、校外研修への積極的な参加を推進する。	B	校内研修については、年度当初の計画にしたがって実施することができた。しかし、校外研修については、予定していた日時に別の業務が入るなどしたため、全員がどれかの研修に一回は参加するという目標を実現することはできなかった。
	命を大切にする心を育む指導	自分と他者を大切にする心と態度の育成	教育活動全体をとおして、全教職員が多角的・多面的なアプローチを行う。	○特別支援教育との関連を図り、自他の生命を大切にする心と態度を育成する。	C	特別支援教育との連携については課題が残り、多角的多面的な取り組みを実現することができなかった。
			講話等のアンケートや感想文を通して、生徒の意識の変容を図る。	○外部講師等による講演を実施し、生命の大切さについて意識の向上を図る。	B	外部講師による講演を実施し、意識の変容を図る取り組みを行うことができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止	いじめ防止取組の充実	年２回以上のいじめ防止推進期間を設定し、啓発に努める。	○６月と１１月に心のきずなを深める取組を実施する。職員間で情報共有・連携を推進する。	A	県からの調査だけでなく、早い段階で本校独自の調査を行うことで、職員間で情報共有・連携を推進することができた。

	いじめの早期発見	担任を中心とした個人面談の実施	年３回の「心のアンケート」を実施し、個人面談を各学期に１回以上実施する。	○生徒指導部がいじめに関するアンケートを実施するとともに、結果をもとに担任・ＳＣ等の面談を実施する。	Ａ	アンケートの内容から、各担任が面談を行う際に有益な情報を集め、事前に担任に提供することで、生徒から更に深い思いを取り出すことができた。
	他者を思いやる心を育む指導	情報モラル教育の推進	ＳＮＳの適切な利用方法を全生徒に身に付けさせ、「いじめのない環境づくり」を目指す。	○定期的にいじめ防止対策委員会を実施する。家庭との連携を図るため、保護者への情報提供をさらに充実する。	Ｂ	生徒に関する調査結果を踏まえて、いじめ防止対策委員会を年３回実施することができた。また、委員会の中で出された各部署からの意見や提案を、対策に役立てることができた。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	総合型コミュニティ・スクール	総合型コミュニティ・スクールの推進	学校運営協議会の開催	○学校評価計画にある目標や全日制に準拠する事項については、協力体制を図りながら取り組む。	Ｂ	目標や課題に対しては計画に沿って進めることができた。また、全日制に準拠する事項については、協力して取り組むことができた。
		災害に適切に対応できる学校運営	・避難訓練の実施 ・防災研修の充実 ・サポートの必要性の把握と対応	○夜間授業に合わせた避難訓練、ＩＣＴを活用した防災研修等の実施を図る。 ○心的サポートが必要な生徒を把握し適切な対応を図り、関係部署との連携･協力の充実を図る。	Ｂ	本校独自で防災避難訓練を実施し、夜間時の避難場所の確認、水消火器による取扱訓練など、実技訓練を行った。 また、３月の地震対応避難訓練については、発震後に停電が発生したことを想定し、その中で自らが考え、安全に避難する訓練を実施することができた。
	熊定タイムにおける地域連携	自分の学びと関連する地域の企業との交流を推進	２年次生の「総合的な探究の時間」において地域の関連企業での仕事内容を体験し、日常で体験できない有益な交流を目指す。	○生徒の自発的な活動により、各企業との円滑な交流を図るとともに、自らの進路意識を向上させ、発表力の育成を図る。	Ａ	インターンシップについては、該当者全員が、学科の学びに関連する事業所において、２日間実施することができた。その中で生徒達は、将来の進路を考える機会を得ることができた。事業所からも、意欲面や礼儀面で評価をいただくことができた。 インターンシップの成果を発表する発表会では、工夫を凝らし、他学年の生徒の参考となるような発表を行うことができた。

	ボランティア活動の推進	ボランティア活動の啓発と実践	高校生として社会貢献を考え学ぶ場を設定し、身近なボランティアを体験させる。	○地域へ向けたボランティアを企画・実践し、社会の一員として貢献できる機会を設けるとともに、感謝の気持ちを持たせる。	A	学期毎に実施してる地域清掃活動については、参加生徒を増加やしながら、実施することができた。 また、能登半島地震への募金活動も実施することができた。
工業教育	ものづくり教育	地域との交流･貢献と喜ばれるものづくりの推進	実習や課題研究等で製作した作品を年間１回以上、地域へ寄贈する。	○各科の特徴を活かし、ものづくりの年間計画・目標を設定し、全職員で積極的に協力する。	A	機械科と建築科の実習で製作した長椅子（機械科２台、建築科２台）４台を、健軍商店街振興組合、健軍文化ホール、託麻まちづくりセンターへ寄贈することができた。
		実習を通しての知識･技術の習得	専門技能・技術を確実に習得する。ものづくりへの楽しさや興味関心を高める。	○４年間で正しい機械操作や取扱い方を身に習得する。	A	機械器具に触れる前にオリエンテーションを実施することで、正しい操作方法や取り扱い方を理解させた上で、実習に取り組ませることができた。
		安全教育の実践	事故や怪我０（ゼロ）を目指す。	○実習前の安全確認の徹底を行う。	A	服装を正しくさせることと必要に応じて保護具を装着させることで、安全に実習等を行わせることができた。なお、作業前には、確実に注意喚起を行うことができた。
	各種資格検定試験への更なる挑戦	各種資格検定への積極的な挑戦	１人年１回以上の資格や検定試験の受検を推奨し、全ての資格試験合格率５０％以上を目指す。	○年間指導計画に基づき、工業各科や担任から検定及び資格の受験を促すとともに、課外の充実を図る。 ○検定資料の準備や指導方法を工夫し、効率的に取り組む。 ○資格を活かした進路選択も推奨する。	B	１年次生全員が計算技術検定を受検することができた。また、数多くの資格検定に挑戦し、多くの資格を取得することができた。全ての資格での目標達成はできなかったが、生徒の資格検定への挑戦と教師の課外授業での対策を通して、基礎学力向上につなげることができた。
	ものづくりに関する技能・技術の向上と安全教育	５Ｓ活動と安全教育	事故や怪我の無い学習環境の中でのものづくりをめざす。	○科別集会等を通して、規範意識の向上を図る。 ○安全教育の実践と５Ｓ活動に取り組む。	A	正しい服装をさせ、必要に応じて保護具を装着させることや、作業前に必ず注意喚起をすることができた。これにより、実習において安全を最優先させ、事故や怪我の防止に努めながら、技術の向上を図ることができた。

部活動	部活動の充実による学校の活性化	生徒の人間性の育成	集団行動をとおした責任感や協調性、心身の健全な成長を目指す。	○目標に向かって取り組む課程において「課題」を発見し、解決するための方法や機会を経験する。	B	定通総体に向けた活動や文化祭の展示に向けた準備などを通して、生徒が各部の目標に向かって活動することができた。
		魅力ある部活動の実現	活発な部活動運営や各大会での活躍など、魅力を発信できる部活動づくりを目指す。	○計画的で活発な部活動運営を推奨し、また持続させるための適切な体制整備を行う。	A	３つの部活動が県大会を勝ち抜き全国大会へ出場することができた。 また、文化系部活の魅力を、文化祭・定通文化大会を通して発信することができた。
保健安全管理	学校保健の充実	心身共に健康な生徒の育成	健康診断を通じて、自らの健康チェックを行うとともに、生涯にわたり心身の健康を意識し、行動変容ができる生徒に育成する。	○毎月実施される科別集会で、保体部からの情報提供を行うことで、生徒への啓発に取り組む。	A	「保健だより」を使った啓発運動を毎月の科別集会の中で行うことで、生徒の健康への動機付けを行うことができた。
			給食時間を通して、食の大切さに関する情報提供を行い、喫食率６０％以上を目指す。	○給食室を衛生的で温かい雰囲気の場所として整備する。掲示物については定期的かつ計画的な添付を心がけ、生徒が学べる環境を作る。	B	温かい雰囲気づくりの土台となる調理室の衛生については十分に保つことができた。 また、給食室の掲示等も毎月交換し、啓発等を行うことができた。ただし、喫食率については、６０％に満たない状況であった。
	学校安全の充実	環境教育（学校ＩＳＯ）の推進	生徒の環境教育に対する意識向上を図り、5S活動・2A運動を推進する。	○日々、定時制が主に使用する場所の清掃を徹底する。始業式や終業式前に全校清掃を設定する。学校版環境ＩＳＯの周知徹底と実践を行う。	B	「５Ｓ活動・２Ａ運動」の取組により、多くの生徒が、日頃から当たり前のことを当たり前にできるようになった。また、清掃活動・ゴミの分別や節水などへの取組も行うことができた。ただ、大掃除の機会が減るという課題が残った。
		学校生活での危機管理（自然災害等を含む）の徹底	緊急時の対応方法と連絡体制の徹底を図り、主体的に行動できる態度を育成する。	○緊急時には熊定メール、学校ＨＰを活用し連絡や学校の対応を生徒・保護者に周知する。	B	緊急時の連絡は、年度途中から「すぐーる」アプリを導入して行っているが、登録が十分でない状況があり、登録依頼を継続している。 また、学校ＨＰでは、近況報告の他、連絡などを掲載した。

４ 学校関係者評価

○学校評価アンケートの結果からは、以下のことが分かった。

保護者は、「子どもが熊工定時制で学ぶことに満足しており、熊工定時制に入学させてよかったと思う」に９８．５％、「定時制の先生は、授業の内容や指導方法を工夫し、分かり易い授業づくりに努めていると思う」に９５．４％、「『ものづくり教育』や『資格取得指導』は、生徒の進路実現に大きく役立っていると思う」に９２．３％、と肯定的な評価を行っており、本校の教育活動に高い評価と期待を持っていることが分かった。

生徒は、「熊工定時制では、１年次から計画的に資格取得など、進路実現のための指導が行われている」、「私は、いじめは『絶対しない・させない』を守っている」、「私は、日頃から交通安全に注意し、余裕を持って登校・下校するよう心がけている」に８７．４％と肯定的な評価を行っており、落ち着いた態度で学習に取り組んでいることが分かった。

○学校関係者評価委員会を兼ねる学校運営協議会では、以下の指摘があった。

「子どもは落ち着いて雰囲気の中で学校生活を送っていると思う」について肯定的な評価を行っている保護者が、前年度と比較して８．１％低くなっていることが指摘された。

また、「学校では、社会で通用する規範意識やモラルの指導育成が積極的に行われている」について肯定的な評価を行っている生徒が、前年度と比較して９．１％低くなっていることが指摘された。

５ 総合評価

○２つの最重点目標について

２つの最重点目標の数値目標については、全てにおいて達成することができなかった。

○評価の全体像について

評価を行った項目の個数は３９であるが、この中で、Ａ評価が１６個、Ｂ評価が１８個、Ｃ評価が５個となった。

Ｃ評価を付けた項目については、その背景には、落ち着かない一部の生徒の学習態度が授業の進行に影響を与えたことや、交通事故や特別な指導が昨年度に比較して増加したことがある。学校生活が落ち着かない状況にあった。

○生徒の学習状況について

基礎学力の不足をいかに補っていくかがという点が課題である。通常の授業に加え、基礎学力を補う取り組みを行っているが、生徒間の大きな学力の差を前にして、成果を出すことが難しい状況がある。

この基礎学力を補う指導については、特別支援教育の視点を取り入れることが必要であるとの考えから、生徒一人一人の背景を理解するための研修を行うとともに、スキルアップのための研修も実施している。しかし、研修で得たものを、実際の指導で十分に実践できていない面もあり、教師のさらなるスキルアップが必要である。

○進路実現に向けた取組について

進路指導部を中心としてキャリア教育を行うことと、各学科が職業教育を行うことで、生徒の進路先の確保を実現することができた。

また、各学科の資格取得に向けた取組の中では、同時に基礎学力の向上を図るなどの工夫を行うことができた。さらに、機械科と建築科では、製作した長椅子を贈呈するなどの地域貢献を行うことができた。

○定時制課程の活性化について

昨年度に受けた中学校等からの要望を踏まえて、例年に比べると早い時期となる９月に学校見学会を実施することができた。また、令和５年１０月１４日には、全日制と合同で熊本工業高校の１日を知ることができる見学会「熊工Ｄａｙ」を実施し、定時制の魅力を紹介することができた。

６ 次年度への課題・改善方策

○自己の未来を切り拓く力の育成

自身の将来に具体的な展望を持てず自己肯定感が低い生徒が多い。これに対して、確かな学力や相手の意見を尊重し仲間と共に課題解決をしていく力を持たせるとともに、地域や社会に貢献し感謝されるという経験をすることで、自己肯定感を高めさせることが重要である。来年度が指定の最終年度となるエンパワーメントハイスクール事業を活用し、基礎学力の向上と進路意識の高揚を図る。

○多様な課題を背負わされた生徒への対応

本校定時制には多様な課題を背負わされた生徒が在籍している。職員がその一人一人に寄り添うことで丁寧な関わりを行い、必要な場合にはスクールカウンセラーや外部機関との連携も図ることを行っている。今後も教職員の更なる資質向上と支援体制の充実を図っていく。

○職員の資質向上と授業改善

変化の激しい時代を生き抜く力を持った生徒を育成するためには、今一度「生徒を第一に」との意識で生徒としっかり向き合い、「チーム学校」を意識し行動できる教員集団を形成する必要がある。そのためにも、職員の意識改革及び研究と修養に努める職員集団を作る。